

あたりまえの大切さ

ちょうこうじ ふくしましんえつ
長光寺 福島伸悦

皆さんはあたりまえ体操を知っていますか？お笑い芸人が、ごくあたりまえな事を歌詞にして歌いながら体操をするコントです。見ていてついつい笑ってしまいますが、よくよく考えてみると、あたりまえなことではない事に気づかされます。例えば、息を吐いたら息を吸う。あたりまえのようですが、呼吸をすることがいかに大事なことか言うまでもありません。

東日本大震災の被災地では、あたりまえの日常が失われてしまいました。節電の呼びかけに、日本中が電気の大切さを実感しました。

世の中には、あたりまえと思われることをあげるときりはありませんが、あたりまえほど有り難いものはありません。失われて初めてその大切さがわかるものです。

曹洞宗の開祖、道元禅師は、二十四歳で中国に渡り、^{にょじょうぜんじ}如浄禅師から受け嗣^{しん}いだ真の仏法を体得し、二十八歳で日本に戻って来ました。そして、その第一声が「^{がんのうびちよく}眼横鼻直 ^{くうしゅげんきょう}空手還郷」。二つの眼は横に並んでおり、鼻は真っ直ぐ縦についている。何も持たずに手ぶらで日本に帰ってきた、というものでした。

「眼は横に、鼻は真っ直ぐ」というあたりまえのそのことこそが仏法の神髄であるというのです。普通私たちは、仏法の神髄、あるいは悟りというとか難しい特別のもののように考えてしまいますが、ごくあたりまえのことを、あたりまえに行ずることこそ大切なのだと説かれたのです。洗面にしても掃除にしても食事にしても、すべてそこに仏法があるということです。

平凡な繰り返しのようですが、あたりまえのことに感謝する生活を忘れてはなりません。仏道とは、その積み重ねなのです。